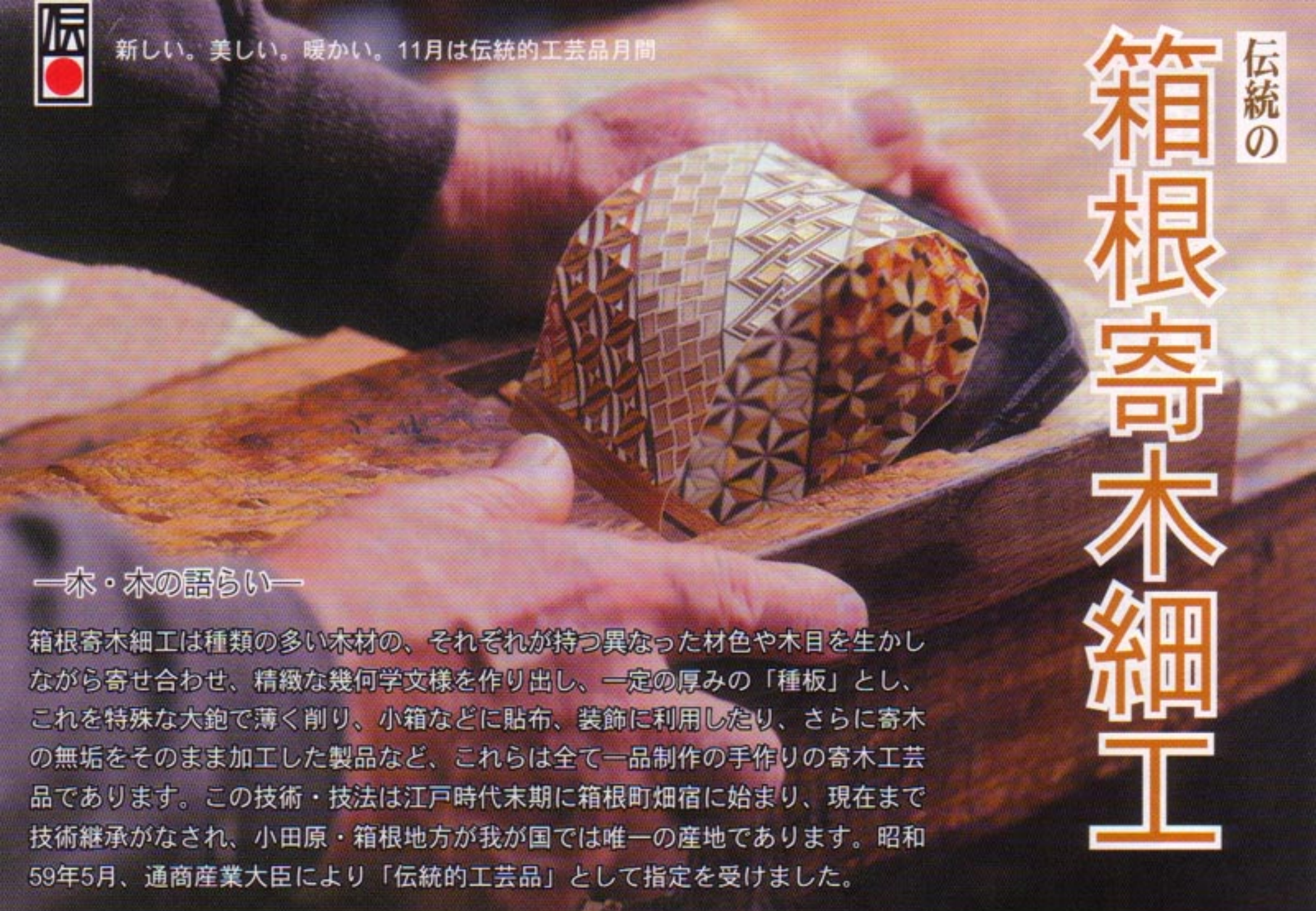




新しい。美しい。暖かい。11月は伝統的工芸品月間

伝統の

箱根寄木細工



—木・木の語らい—

箱根寄木細工は種類の多い木材の、それぞれが持つ異なった材色や木目を生かしながら寄せ合わせ、精緻な幾何学文様を作り出し、一定の厚みの「種板」とし、これを特殊な大鉋で薄く削り、小箱などに貼布、装飾に利用したり、さらに寄木の無垢をそのまま加工した製品など、これらは全て一品制作の手作りの寄木工芸品であります。この技術・技法は江戸時代末期に箱根町畑宿に始まり、現在まで技術継承がなされ、小田原・箱根地方が我が国では唯一の産地であります。昭和59年5月、通商産業大臣により「伝統的工芸品」として指定を受けました。



もっと知りたい、箱根寄木細工のこと。

Q&A

A

Q

伝統的工芸品は日本各地で作られています。その数は平成十年の調べではおよそ一一〇〇の工芸品があることがわかっています。そのうち、国の指定を受けている工芸品は全国では、十三年度に三品目増え現在は一九八品目です。数が多いのは織物や人形や玩具で、各地でさまざまなのが作られています。また、箱根寄木細工や小田原漆器、鎌倉彫など、生産地の名前がついているものが多いので、一目でどこで作られたかがわかります。

全部合わせてみるといいですね。

A

Q

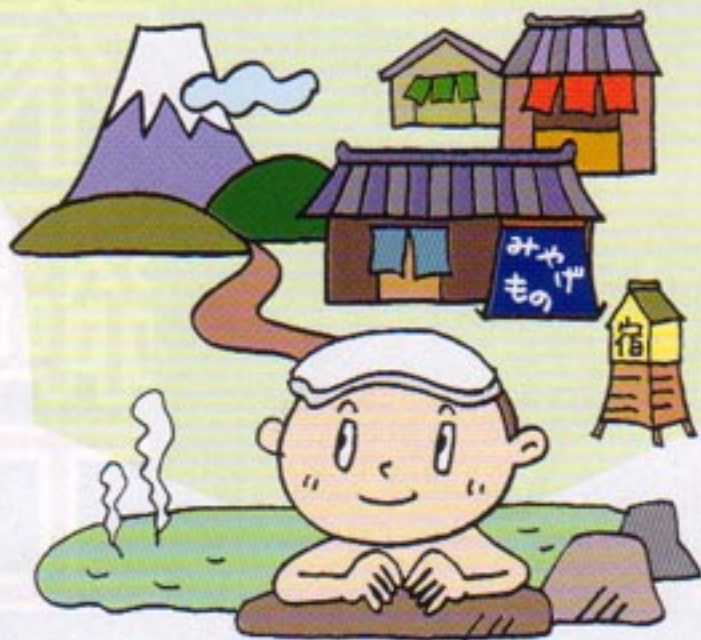
伝統的工芸品ってなに？

昔から伝わる技術やいろいろなやり方で、職人さんが作りあげたもの、それが伝統的工芸品です。材料は自然にある物を使い、作り方の基本は百年以上前からずっと続いています。伝統的工芸品は、できあがりの美しさや使いやすさで昔から親しまれ、愛されてきました。そして今でも多くの人びとに使われ、私たちの生活になくてはならない大切なものになっています。



Q 箱根寄木細工はどの地域で生産されているのか？

A 小田原・箱根地域が主な生産地です。



Q なぜ箱根地方で寄木細工が盛んになったのか？

- A**
- 箱根山には昔からたくさんの材料（木材）がありました。
 - ものをつくる職人さんが定住していました。
 - 東海道箱根関所、小田原の宿、箱根温泉のにぎわいあって、箱根のみやげ品がたくさんつくられ、箱根細工として全国的に有名になりました。

Q 材料はどこから買うか？

A 現在は日本全国から買っています。外国からの材料も一部使っています。



Q 何人くらいでつくっているか？

A およそ80人です。そのうち財伝統的工艺品産業振興協会の実施する認定試験に合格した伝統工芸士が10人おられます。

Q 箱根寄木細工の特徴は何か？

A 自然の有色材料を寄せ集めて、きれいな寄木文様をつくり、箱類に貼り付けたり、無垢の寄木ブロックをそのまま製品につくるものなどがあります。

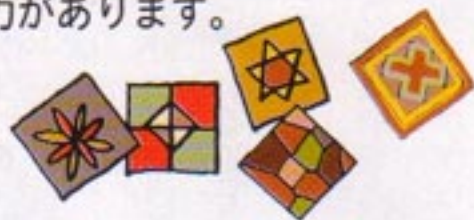


Q いつからつくっているか？

A 江戸時代の後期（約200年前）箱根畑宿の石川仁兵衛という人が、現在の寄木細工を確立し、明治時代になって複雑な文様が考案され、その種類も多くなりました。

Q 文様の種類は何種類あるか？

A 基本的にはおよそ60種ですが、応用のやりかたで無限に近い紋様が生まれる、不思議な魅力があります。



Q 手づくりの良さとはなにが?

A 寄木細工とは、その名のとおり木を寄せ合わせて作られていて、作り手の心意気を使う人の生活に「うるおい」と「あたたかさ」がやわらかく伝わる、それが手作りの良いところですよ。

Q 製品の販売先はどこか?

A 主に小田原、箱根、伊豆地方の観光土産店で売られています。外国からの注文もあります。



Q 箱根寄木細工ののつくり方で難しいところはどこか?

A 寄木の文様がきっちりと作られているか、色のバランスがとれているか、製品そのものがしっかりつくられているか、危険なところがないかなどです。



Q 伝統を守るのにどんな努力をしているか?

A 寄木細工職人になるには長い年月が必要です。人によって違いますが、およそ10年かかると言われています。ですから若い時から技術を習わないと伝統技術の習得は難しいのです。組合では伝統工芸技術を守るために、後継者の育成や技術研修会を開いたり、常に新製品の開発に力をそそいでいます。

Q 箱根寄木細工にはどんな材料をつかうか?

A 寄木細工では木材の自然な色合いと、木肌が重要です。このため非常に多くの種類を用いますが、色の系統別による主な木材として、次の種類があります。(国内産及び外国産)

白色系 アオハダ・モチノキ・セン・ミズキ

灰色系 ホオノキ・アオハダ

淡黄色系 ニガキ・マユミ

黄色系 ウルシ・クワ・ニガキ・ハゼノキ

赤色系 パドック・レンガス

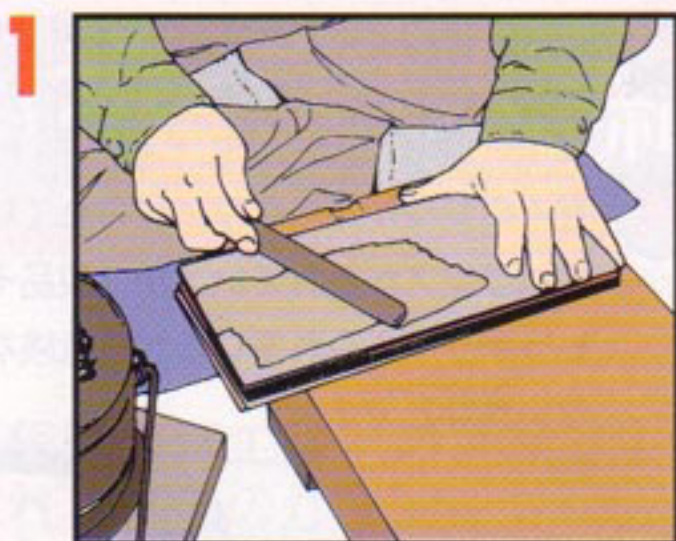
緑色系 ホオノキ

茶色系 アカグス・イチイ・エンジュ・カツラ・クルミ・クスノキ・クワ・ケンポナシ・ケヤキ・サクラ・チャンチン・タブノキ・ナトー

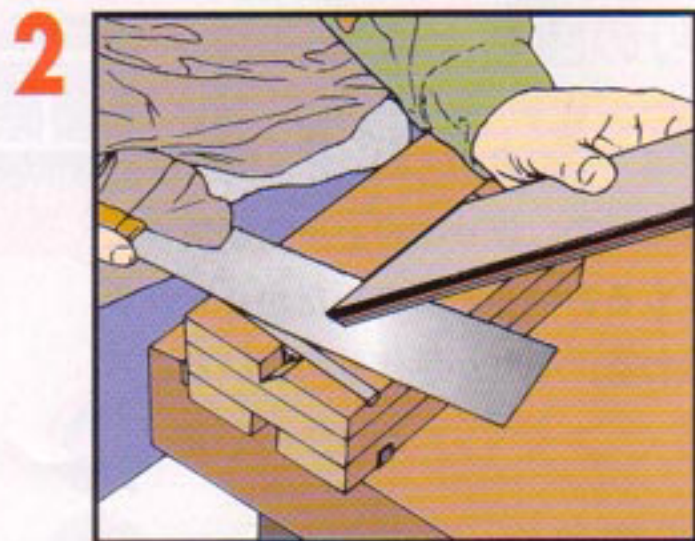
褐色系 カツラ神代・ケヤキ神代・ウォールナット・マンソニア

黒色系 カツラ神代・クリ神代・コクタン・クロガキ

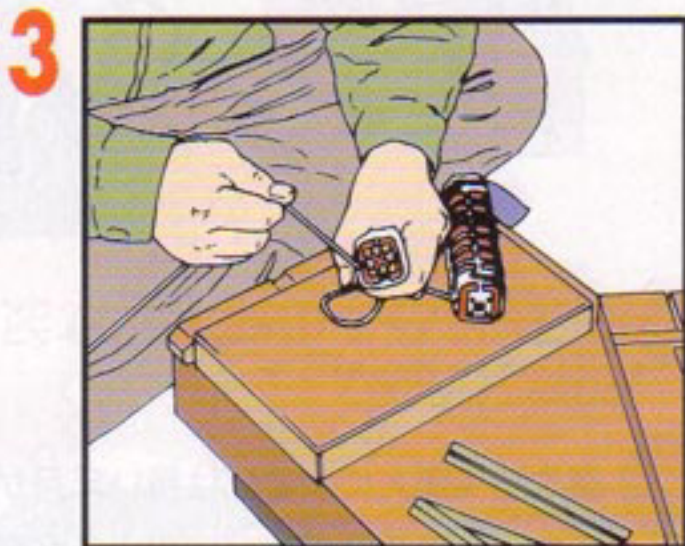




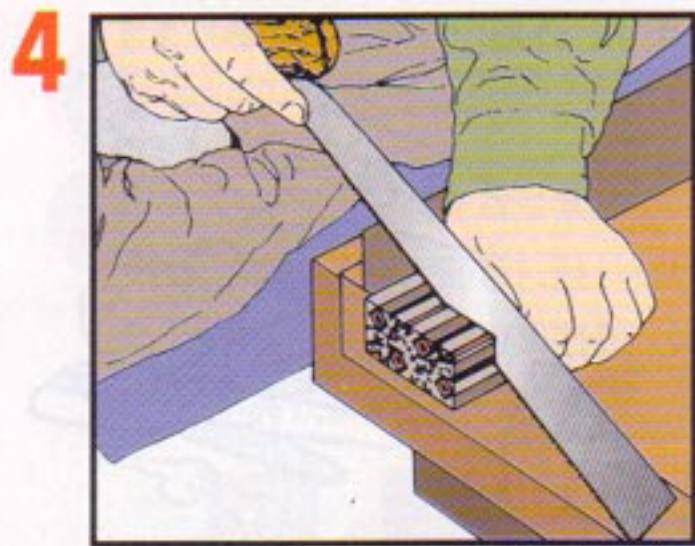
1 寄木文様にする有色材料を接着剤を塗布して文様の基礎材をつくる。



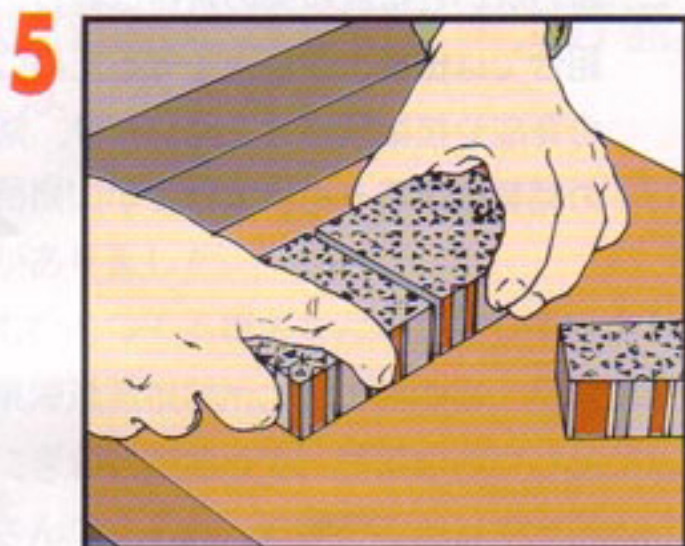
2 文様基礎材をノコを使って正確に切断し、かんなで文様部材をつくる。



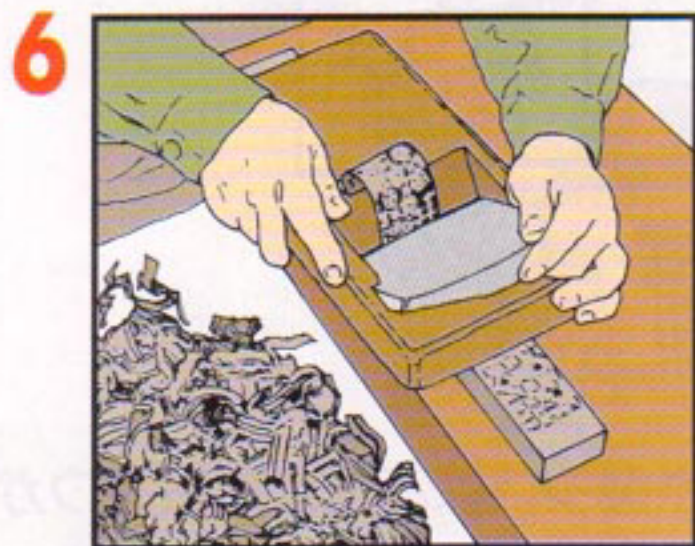
3 文様部材を接着剤を使って単位文様材をつくる。



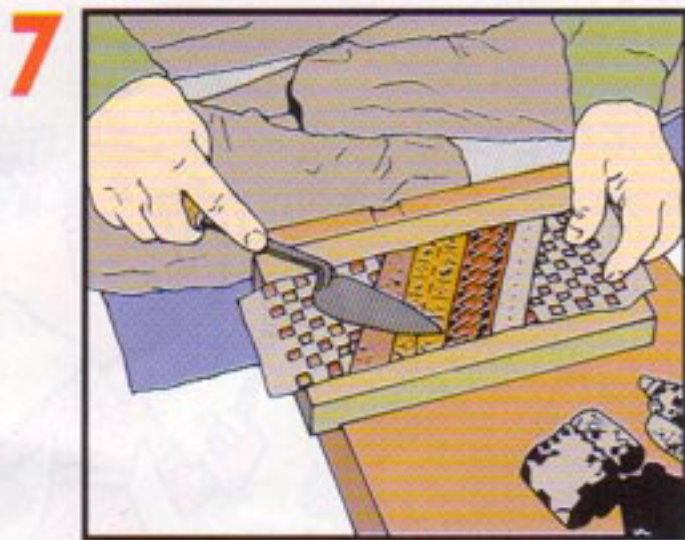
4 単位文様材を集成して一定の寸法に切断する。



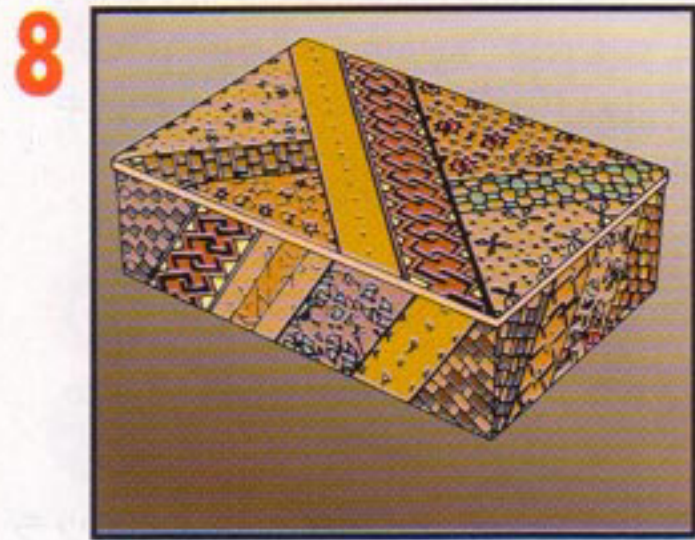
5 切断した複数のブロックを連続文様になるよう大寄せを行い、種板をつくる。



6 特殊な大きなかんなで経木状に一枚づつ削り出す。これを「ズク」と呼んでいる。



7 削った「ズク」は曲状になっているのでアイロンで平らにのぼす。



8 小箱に寄木ズクをはり、製品として完成する。